



昭和大学
学士会後援
セミナー

補綴的観点を 踏まえた 外科的矯正治療

名古屋大学 大学院医学系研究科
総合医学専攻 頭頸部・感覚器外科学講座

日比 英晴 教授



11.17 金

18:00—19:30

開催形式

オンライン開催 (ZOOM)

講座内容

顎変形症に対する外科的矯正治療は、日本顎変形症学会の認定医制度が始まったところで、矯正医と口腔外科医が協働することが前提です。補綴医も関与したことはありますが、咬合関係の検討にとどまっていた感があります。矯正医が術前後の矯正治療を担い、一貫した概念で診療は進みますが、補綴的視点が加わると形態的にも機能的にもより満足度の高い結果が得られます。

全部床義歯では試適の段階で、人工歯の配列状態のみならず、床縁の厚みなども吟味します。補綴医であれば当然のことですが、Le Fort I型骨切り術での上顎骨片はまさに同様の状態であり、補綴の感覚と直結し既視感を覚えることがあります。その感覚がないと、知らずしてほうれい線の予備軍をつくり、数十年後に顕在化することになりかねません。異なるのは軟口蓋で、鼻咽腔閉鎖機能に影響の有無が顕れます。これは気道の狭窄しやすい部位の最上方であり、下方には舌根や喉頭蓋があります。これらは下顎位に直結するので、残存歯があれば口腔内装置により保存的に是正するのが一般的になりました。この観点は下顎の骨切り術では非常に重要であり、これも配慮がないと睡眠時無呼吸症を医原性につくることになりかねません。

補綴医も口腔外科医も扱う対象が同じでも、対処する方策が異なるので、概念まで共有できず各論に陥ってしまいがちです。そこで知識を整理しなおし、そもそもの概念を再構築してみましよう。手術中の動画でいっしょに疑似体験もできると思います。皆さんの今後の補綴診療に役立てば幸いです。

昭和大学歯科補綴学講座

担当：大澤昂史 内線237 Mail : takahito.o@dent.showa-u.ac.jp

何かございましたらお気軽にお問い合わせください